

駒ヶ根市文化財

名称	吉瀬の経塚
種別	歴史資料
所在地	中沢吉瀬
説明	<p>南吉瀬のはずれの小高い丘を地元の人たちは経塚(きょうづか)と呼んでおり、その頂上に「書写経塚」と刻んだ自然石の石碑がある。</p> <p>『中沢村誌』によると「往古、不動尊の堂宇ありしが、本尊の所在不明となりしより、残れる経文其他を埋めし処なり」と記されている。</p> <p>経塚とは経典とともに副葬品として鏡・刀子・貨幣などを地中に埋めその上に盛土をしたもので、平安時代中頃より江戸時代にかけて広く行われていた。経典は紙・銅・瓦・石・貝等に書かれており、江戸時代になると石を用いた礫石(れきいし)経塚がほとんどである。</p> <p>古い時期は寺の境内に造られるものが多いとされており、『中沢村誌』の記載を正しいとすれば、時代がさかのぼることも考えられるが、現在のところ正確なことはわからない。</p> <p>市内に現存する経塚は、この外には東伊那栗林の小池宅に1基あるのみです。すでに壊されたが、東伊那栗林と火山の境界の三叉路と赤穂福岡馬住ヶ原、福岡南信酪農業協同組合赤穂支部事務所の3箇所にあったことが知られている。三つとも礫石経塚である。</p> <p>各地に残る地名「経塚」もこれに由来するものと思われるが、塚そのものの場所は不明である。</p>



経塚



書写経塚